

町田市議会  
2025年  
第3回定例会

芹ヶ谷公園「(仮称)国際工芸美術館整備」  
に赤信号 整備費28億→48億へ  
市民参加でゼロから見直しを

日本共産党町田市議団



芹ヶ谷公園と(仮称)アート体験棟等整備予定地(右側)

町田駅近くの芹ヶ谷公園。園内には国際版画美術館が自然と調和した形で佇み、世代を問わず多くの方に利用されている公園です。町田市では、この公園内の国際版画美術館の隣に、町田市立博物館(本町田)の収蔵品を保管展示する「(仮称)国際工芸美術館」を建設する計画が進められており、さまざまな問題が起こっています。存続を求める請願が採択された市立博物館を廃止し、新たな工芸美術館を作るにあたって、いまある国際版画美術館内の

### 市民から請願次々

2025年第3回町田市議会定例会が、8月27日から9月30日まで行われました。9月補正予算(第3号)について日本共産党は、芹ヶ谷公園「芸術の杜」推進事業の(仮称)国際工芸美術館整備事業約19億円(本年度分)の増額が含まれており反対しましたが、賛成多数で可決されました。

また、2024年度に執行された『町田市一般会計・特別会計 歳入・歳出決算認定』に対して、日本共産党は地方自治体の「住民の福祉の増進」という視点に立ったまちづくりや市政運営が行われなかったとして反対しました。党市議団提出の「生活保護費削減分の支給と謝罪を求める意見書」は賛成多数で可決。共産党が紹介議員になった「高齢者ホーム出張調髪利用券の発行継続に関する請願」も賛成多数で採択されました。

## 『速やかな生活保護費削減分の支給及び利用者への謝罪を求める意見書』賛成多数で可決

版画工房と喫茶店の部分をなくし、公園内に新たな建物を建てて移設するという計画です。工芸美術館を斜面地に建てることで樹木が伐採され、谷戸の原風景が壊されるとして近隣住民の方、工房利用者、市民の方々などが反対しています。計画の見直しを求める請願、説明して意見を聞いてほしいなどの請願が繰り返し議会に出されています。

### 入札不調の次は 仮契約解除

さらに、「(仮称)国際工芸美術館」は資材高騰などで、整備費の増額が繰り返されています。(※表参照) 2024年は入札不調が3回も続き、施工会社との契約案件が2024年12月に議会でも可決(共産党市議団は反対)されましたが、年明けの1月には会社側から契約解除が申し入れられるという事態が起きました。市民の声を聞かずに進めてきた計画に対し、仮契約解除という状況になった段階で、計画は一度中止し見直しをはかるべきです。前代未聞の事態が生じたにもかかわらず、町田市は今議会に再度、補正予算で48億円の工事整備費を提案しました。

### 計画は破綻 まずは白紙撤回を

これまで市は、(仮称)国際工芸美術館の整備費削減の取り組みとして、美術館整備で発生する残土を公園内の他の工事に利用することで費用を削減できるとしていました。しかし、美術館の整備時期が遅れたことで、他施設の工事間でのやりとりができなくなり、その分の費用が約1億円かかることもわかりました。工芸美術館を先に整備するという計画が破綻しても、スケジュールありきで進めようとするためにこうしたさらなる予算増につながっています。美術館だけでなく、関連事業の「(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」についても、9月末に入札事業者がなく不調になっています。計画を進める道理や条件は完全に破綻しているという状況です。共産党市議団は、当初から、市民との合意形成のないままに進められてきた芹ヶ谷公園芸術の杜、(仮称)国際工芸美術館整備の白紙撤回、市民や専門家の参画で計画を見直すことを求めています。市民の暮らしをないがしろにしながら、整備費は増やし続ける本事業の見直しを引き続き強く求めていきます。

#### (仮称)国際工芸美術館整備費の変遷

| 議会        | 整備費等                                   |
|-----------|----------------------------------------|
| 2022年3月議会 | 整備費予算 28億5千万円                          |
| 2023年3月議会 | 整備費予算 33億円                             |
| 2023年度    | 3回の入札不調<br>コンストラクションマネジメント<br>による設計見直し |
| 2024年3月議会 | 整備費予算 43億8千万円                          |
| 2025年1月   | (株)スターツCAMが仮契約<br>解除の申し出               |
| 2025年5月   | 市は同社に損害賠償請求                            |
| 2025年9月議会 | 整備予算 48億4600万円                         |

### 日本町田小 唯一のメモリアル 「希望の森」を残すべき

4月に統合校として開設された本町田ひなた小(旧本町田小跡地)の敷地に今でも残る「希望の森」は、地域住民から愛され、教育現場での子どもたちの成長に大きな役割を果たしてきました。町田市は、小学校用地の場所に、町田第三中と山崎中の統合校をつくり、運動場確保のため「希望の森」を壊そうとしています。町田木曽団地周辺から小中学校がなくなってきた中で、「希望の森」は唯一のメモリアルです。「希望の森」を生かした跡地利用の検討を求める請願は不採択(共産党は賛成)になりましたが、「希望の森」は残すべきです。



本町田ひなた小学校(旧本町田小)の「希望の森」

### 特養ホームの 出張調髪利用券

なくさないで!

来年度から利用券を廃止するとして市に対して、市内の理容組合から提出された『町田市高齢者ホーム出張調髪利用券の発行継続に関する請願』は、健康福祉常任委員会では全員一致、最終日表決でも賛成多数で採択されました。党市議団は紹介議員になり、特養ホームに入所している1479人中、70%が利用する福祉的補助制度であり、調髪して気持ちよく過ごすことは高齢者の尊厳にもかかわり廃止は許されないと賛成討論を行いました。

